医療費分析結果の活用法や収納率向上策など学ぶ

国保事務担当者及び医療費適正化研修会

京都府と府国保連合会共催の国民健康保険事務担当者及び医療費適正化研修会は、９月４日（木）、５日（金）の両日、京都市上京区のルビノ京都堀川で、３４保険者と３保健所から延べ１４７名の参加者を集めて開催された。

初日は、西垣義郎府医療保険課長が主催者を代表して挨拶し、本格的な医療制度改革実施から５ヶ月経った現在の状況を述べた。

講演をする池田氏

午前の講演は、株式会社ヘルスリサーチ＆ソリューション代表取締役社長の池田典之氏が「医療費分析結果の保健事業への活用」のテーマで行なった。池田氏は医療費分析を行なった結果として“何がわかるのか”というやり方ではなく、“何を知りたいのか” 分析目的となるテーマを明確にし、医療費分析を行なう必要があると説明した。

午後からは厚生労働省国民健康保険料（税）収納率向上アドバイザー兼社会保険労務士の小金丸良氏が「国保保険料（税）収納率向上の秘策（究極の滞納整理）」と題して講演を行なった。小金丸氏は市町村における保険料徴収実務について、現状を説明し、自身の経験談を混じえながら、ポイントと対処法をわかりやすく説明した。

講演をする小金丸氏

二日目はレセプト点検研修会に続いて中島医院長の中島悦郎氏が「肝臓病と健康保険」のテーマで講演した。